

琉球大学学術リポジトリ

アルゼンチンの概況と農牧業

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): アルゼンチン, 産業, 農作物, 牧畜 キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015229

アルゼンチンの概況と農牧業

新 垣 真 保

(琉球大学農学科)

はじめに

1966年11月から67年4月にかけておおよそ5か月間、南米のアルゼンチン、パラグアイ、ブラジル、ポリビヤ及びペルーの国々を主として移住地及び農業関係の調査旅行をした。その間アルゼンチンでは他のいずれの国よりも長い2か月の日数を費した。同国では首府近郊の花き、蔬菜業、サンタフェー、コルドバ州の牧畜と酪農地帯、南部の州リオネグロとネウケンのリンゴとスモモの生産地帯、アンデス山脈の最高峯アコンカグワに最も近い州で世界屈指のブドー産地メンドサのブドー栽培と醸造工場及びアンデス日本人移住地、並びにそれら果実の大産地は降雨が少なく乾燥地帯であるので同地方におけるアンデスの雪溶け水を利用してのかんがい施設とその状況などを調べた。サンフアン市近郊のブドー園やアンデス山麓で満々と雪溶けの水をたたえているダムもいくつか見学した。当時南米の盛夏12月の末であったがアンデスの運峯は白衣に被われていた。厚くかぶさっている連峯の雪は真夏の太陽に照らされて徐々に溶けて流れてダムにたまる。洋々たるダムの水は水門から凄い勢いで吐き出されて川の如く大きな水路を通過して果樹地帯に流れて行き莫大な面積のいくつかの州に亘る大面積の果樹園を潤すのである。

冬は雪が溶けないので用水は流れない。すばらしい天恵である。それらのかんがい事業は政府によって管理されていて、その水を利用する耕作者は時間と面積によって料金が計算されて政府に納める仕組になっていた。

アルゼンチンでの最後の調査地は同国の東北部亜熱帯地域のミシオネス州であった。同州は降雨も多いので植林事業が最も有望視されている地帯である。また同州には日本人移住地もあるのでそこも大きな調査対象であった。その間農科大学や、農業、畜産の試験場、世界一を誇る屠畜場と酪農工場及びブドー酒工場をも見学した。然しこれだけの調査や見聞では広大なア国のほんの一部をのぞいたに過ぎないのはいうまでもないが、それらの実地調査の資料と同国の資料及び日本側関係機関の資料とを参照して、ア国の概要と農牧国として世界的に有名

である同国の農牧業の概要を簡単に書いてみることにする。

1. アルゼンチンの概況

1. 自然

1) 地勢 南米の南部に位置する本州第2の大国、西はアンデス山脈の分水嶺でチリーと境いし、東と北部ではウルグァイ、ブラジル、パラグアイ、ポリビヤと接し東は大西洋に面している。地勢上東部大平野と西部山地とに分けられる。東西の幅が最も長いところで1,372km、南北の長さ3,680kmある。面積は南米地域内に2,826,715km²でおおよそ日本の8倍、沖縄の総面積の1,167倍にあたる。その外に南極地方で1,231,064km²の領土権を主張している地域がある。東部大平野の北部はグランチャコといわれ森林地帯で有用木を産し、中央部はパンパスと呼ばれチェルノーゼムという黒土地帯をなし腐植質を多く含むとても肥沃で穀類と牧畜の世界的大産地となっている。南部地方はパタゴニアとも呼ばれ、降雨が少なく、気温も低くかつ砂礫の多い不毛地が多いが、そこにもまた牧羊が盛んである。西部アンデス山脈地帯は世界で2番目に高いところで最高峯は7000米を越す地域で年中雪に被われているため山麓東隣の地帯では夏季にその雪溶け水を利用して乾燥地へのかんがい事業が政府の手で行なわれている。ラプラタ河は河口幅280km、長さ4,700kmあって同国と隣接諸国に大きな利益をもたらしている。

2) 気候 地球上で日本と正反対の位置にあるから昼夜、四季の関係が反対である。気候は北部の亜熱帯から南部の寒帯にわたっており、最も暑い1月の平均気温が28°Cから10°C。最も寒い7月の平均気温が18°Cから2°C年平均気温で22°Cから6°Cの地域があるが大部分は温帯地域である。四季の区別は判然としている。年雨量は東北部の2,000mmの地帯から南部の200mmの地帯もあるが大部分の地域は400mmから1,000mmの範囲にある。ブエノスアイレス市では1月の平均気温23.6°C、7月の平均気温8.7°C、1年間の平均は16.3°Cであり、年雨量は857mmである。

3) 生物 地勢と気温、降雨の差異が大きいいろいろな地帯がある関係で自然界の動植物の種類が多く、導入されたものも多い。植物では有用木のケブラチヨ、マテ茶、パラナ松、アメリカマツ、ユーカリ、ポプラ、コカ、キナ、マルメロ、リュウゼツラン、サボテン類、クルミ類その他多く、動物にはジャガー、コンドル、アメリカ蛇鳥、ハチドリ、オーム、高山にはリヤマ、アルパカ、シカ、アリクイ等があり、南部地方にはペンギンがいる。海や川の魚族は豊富で川においてさえ長さ2mを越す魚がいる。

2. 人 文

1) 住民 この国は1516年スペインの探検隊に発見され、以来スペインの支配下におかれたが、1810年5月反乱が起り、1816年7月9日独立し共和国となった。2,300万人位の住民がいてその内14%は外国人である。1km²当りの人口密度8人、年間人口増加率1.7%である。住民の99%以上が白人であるから白人の国といわれ、全体の95%をスペイン系とイタリー系で占め圧倒的に両国系が多い。イタリー系55%、スペイン系40%でイタリー系が最も多く大きな勢力を占めている。その他ではフランス、ポーランド、ロシヤ、ドイツ系の順である。16世紀の初めスペイン人の侵略によって先住民は奥地へ逃げたので混血はほとんど行なわれなかったが北部から中部

にかけてはスペイン人と土人との混血種 gaucho 人がある。主に牧畜労働者で騎馬に巧みである。南部パタゴニヤ地方には世界で最も長身といわれるパタゴニヤ土人がいる。昔100万人を越していたそうだが、パンパスの沃野を追われて南方の荒地に逃げ、今日では2~3万人以下に減少し絶滅に近いという。

1857年から1939年までの83年間に約680万のヨーロッパ人が移住してきたがその約44%はイタリー人、約31%がスペイン人であった。戦後はヨーロッパの戦禍地域と後進国からの移住者が特に多い。日系人は約2万人で内1万5千人は沖縄人である。同色同宗教の移民を歓迎する国であるが日本人は特別に白人扱いを受けている。

人口はパンパス地帯に多い、かつ都市集中の傾向が強く、都市人口は全住民の75%を占めている。

ラテンアメリカの中で最も文化程度が高く南米のヨーロッパといわれている位である。宗教はカトリック、国語はスペイン語である。

ラテンアメリカ中で教育程度が一番高く、それら諸国からの留学生が多い。文盲率は10%である。風俗習慣は本国スペインに似ているが、フランス風をまねる傾向があり、国民性は芸術を愛好する性質が濃い。国体は立憲共和国であるが、しばしば政変があり、現在は軍政中で議会は開かれていない。

第1表 アルゼンチン移民の構成

国 名	1857年~1939年	%	1940年~1949年	%	1857年~1949年	%
イ タ リ ー	2,973,971	44.01	300,532	10.72	3,274,503	34.24
ス ペ イ ン	2,085,819	30.77	227,886	8.13	2,313,705	24.25
フ ラ ン ス	241,271	3.56	44,368	1.53	285,639	2.98
ポ ー ラ ン ド	182,097	2.69	73,045	2.60	255,142	2.66
ロ シ ヤ	178,786	2.64	33,661	1.17	212,447	2.22
ド イ ツ	154,569	2.43	48,326	1.73	202,895	2.12
そ の 他	940,199	13.90	2,077,572	74.06	3,017,771	31.53
合 計	6,756,712	100.00	2,805,390	100.00	9,562,102	100.00

第2表 アルゼンチンの生産物の価値割合

項 目	1947年 %	1956年 %	1962年 %
農作物生産	22.3	21.0	25.4
畜産物 "	22.1	19.5	16.7
漁業 "	—	0.2	0.2
鉱業 "	3.7	2.4	3.7
工業 "	46.3	46.8	42.7
建造製作業	5.6	10.1	11.3
	100.0	100.0	100.0

(注) 商業とサービス業を除いている。

Ⅱ. アルゼンチンの産業

アルゼンチンは農牧国として世界的に有名であるが地下資源や海洋資源も豊富である。工業では農牧の産物を原料とする軽工業が盛んであるが近年重工業も発展しつつある。アルゼンチンの生産物の価値割合と国土状況は第2表と第3表の通りである。

第3表 アルゼンチンの国土状況

項 目	面 積	現在比率	可能地比率
		%	%
作物耕地	28,400,000 ヘクタール	10.35	22.92
牧場地	128,300,000	46.41	31.48
森林(植林)地	70,000,000	25.27	32.10
不毛地 (非生産地)	49,800,000	17.97	13.50
合 計	276,500,000	100	100

1. 農業 国土広く亜熱帯から寒帯にまたがり、高地と平野、多雨と寡雨の地帯を併有しているのであらゆる作物の適地がある。ほとんどの作物が作られ、世界的に有名な作物が多い。その多種多様さは第5表と第6表第8表を見ればよくわかる。

第4表 全国の耕作面積 (果樹と他の樹木は除く
1961~62年度)

項 目	面 積	%
穀 物	13,683,000 ヘクタール	49.62
牧 草 類	9,138,500	33.14
油 料 作 物	2,644,900	9.59
工 業 作 物	1,730,900	6.27
野 菜 と 豆 類	379,350	1.38
合 計	27,576,650	100

第5表 アルゼンチン国の産物の種類と栽培面積 (ヘクタール)

項 目	1961~1962年	項 目	項 目	項 目	
コ ム ギ	4,722,800	ワ タ	607,300	バ レ イ シ ョ	156,000
ト ウ モ ロ コ シ	3,300,000	サ ト ウ キ ビ	214,500	チ ヤ	30,700
ア マ	1,306,900	ラ ッ カ セ イ	278,800	ア ブ ラ ギ リ	48,100
カ ラ ス ム ギ	1,409,200	キ ヤ ッ サ バ	21,000	野 菜	** 223,350
オ オ ム ギ	1,224,700	ギ ネ ア モ ロ コ シ	25,100	K a f i r	1,039,700
ラ イ ム ギ	2,645,500	タ バ コ	44,400	サ ト ウ モ ロ コ シ	391,700
イ ネ	59,800	マ テ チ ャ	* 64,000		
ク サ ヨ シ	61,700	ア ル フ ェ ル フ ェ	7,110,000		
キ ビ	250,300	ス ー ダ ン グ ラ ス	593,000		
ヒ マ ワ リ	1,338,000	ブ ド ウ	238,000		

註 *...1954~55年度分 **...バレイシヨを除いてある。

中部のパンパス地帯は気候温和、地味が最も肥沃であるから最も進んだ農牧地であり、穀類と牧牛の世界的大産地である。農地改革がおくられて大地主が多く、1880年頃の経済社会が存続しているように見える。大地主は3000人位いて、ブエノスアイレス州では僅か7%の大地主が州全農牧地の85%を所有しているといわれている。したがって凄く大規模、機械化農業が行なわれている。

作物の栽培面積と生産高は第4表と第6表のとおりであり、穀類と牧草類の面積比率が特に大きいこと、及び穀類と工業作物の種類が極めて多くかつその生産高の大

きさが目につく。穀類の生産は世界的に有名で、穀実と粉にされたものが大量に輸出されている。穀物類は畜産品と共に輸出品中の二本の大黒柱をなしている。アルファルファは栽培面積が最も大きい作物である。勿論牧草の主体をなすと共に乾燥粉末にされて外国への輸出も多い。同国におけるこの牧草は特に重要な意義を持っている。アルゼンチンで牧畜が栄えているのはもっぱらこの草のお陰であり、なおこれを輪作体系にとり入れることにより地力の維持増進にも顕著な効果をあらわしている。

第6表 農産物と製品の生産高(1963年~64年 単位 1,000トン)

項 目		生 産 量	項 目		生 産 量
(1) 穀 物 と ア マ	コ ム ギ	8,120.0	(3) 其 の 他	アルファルファ	6,133.0
	トウモロコシ	5,350.0		バレイショ	1,492.4
	オ オ ム ギ	1,020.0	(4) 精 製 品	小 麦 粉	2,238.5
	カ ラ ス ム ギ	906.0		砂 糖	1,578.6
	ア マ	771.0		(単位100万ℓ)	
	ラ イ ム ギ	538.0		ビ ー ル	172,228.0
	イ ネ	190.0		ブ ド ー 酒	(〃) 1,953.3
クサヨシの実	46.8	食 用 植 物 油		219.6	
		非 食 用 植 物 油		233.8	
(2) 工 業 作 物	サ ト ウ キ ビ	11,950.0	チ ー ズ	154.8	
	ブ ド ー	2,376.0	バ タ ー	50.3	
	ヒマワリ種子	460.0	カ ゼ イ ン	28.8	
	粗 綿	337.2	ア ル コ ー ル (工業用)	(単位1,000ℓ) 113,200.0	
	綿 織 維	99.2	ケブラチョエクス	103.5	
	ラ ッ カ セ イ	333.0	羊 毛	200.0	
	タピオカ澱粉	240.2	牛 肉	2,200.0	
	オ リ ー ブ	56.3	と(5) 内家畜の 年間生産 頭数	牛	(単位1000頭)11,123.3 (1961~62) 9,500.2
	チ ヤ	49.8		羊	(") 8,394.6 (1961~62) 7,268.6
	タ バ コ	48.8		豚	(") 2,099.5
		牛 肉		2,200.0	
			羊 肉	150.0	
			豚 肉	196.3 (1965年)	

第7表 ブドウ園 (1963年ヘクタール)

州 名	面 積
メ ン ド サ	172,000
サ ン ファ ン	47,300
リ オ ネ グ ロ	16,800
そ の 他	16,900

第8表 果実生産 (1962/63年)

種 類	熟 期	生 産 (トン)
モ	1 月 ~ 3 月	186,000
ウ	〃	39,000
ナ	1 月末, 3 月, 6 月	98,000
マルメロ (カリン)	2 月 ~ 5 月	16,300
ブドウ (実)	2 月中旬 ~ 5 月	2,376,000
リンゴ (実)	2 月末 ~ 6 月	474,000
カンキツ	5 月 ~ 9 月	496,000
マンダ (温州ミカン)	5 月 ~ 11 月	195,000
リン (ボンカン)		
レモン	6 月 ~ 9 月	793,000
ザボン	6 月 ~ 9 月	49,500
セイヨウスモモ (ドンス)	11 月末 ~ 5 月	128,000
バナナ	夏 期	36,380

第9表 最近85年間における家畜頭数の消長

種 類	1875年	1908年	1914年	1937年	1947年	1962年
牛	13,337,862	29,116,625	25,866,763	33,207,287	41,268,000	42,552,433
馬	3,915,706	7,531,376	8,323,815	8,319,143	7,238,000	3,965,570
ラバ, ロバ	390,377	750,157	825,226	781,308	501,000	—
羊	57,501,261	67,211,754	43,225,452	43,882,728	50,857,000	45,705,058
山羊 (CAPRINOS)	2,863,227	3,945,086	4,325,280	4,649,488	4,934,000	—
豚	257,368	1,403,591	2,900,585	3,965,945	2,981,000	3,115,024
計	78,265,801	109,958,589	85,467,121	94,805,899	107,779,000	95,338,085

2. 牧畜 この国は気候風土に恵まれかつ良質の牧草が良く生育するために世界的に有名な牧畜国である。1962年度までの家畜頭数の消長は第9表のとおりであるが、特に牛と羊の頭数が多く両者は穀類と共に外貨獲得の大きな財源になっている。政府の1966年の発表によると牛4,800万頭、羊5,000万頭、山羊500万頭、豚350万頭である。

甘蔗作は北部地方ツクマン州で盛んであり砂糖年間160万トン位の生産があるが自給自足を保っている。ヒマワリの種子からはサラダ用の最上級油がとれる。その作付と生産が多いのも、肉食の多い同国で、食事の時には必ずブドー酒とソーダ水を混合したのが飲まれるように、果実と多くの生野菜は不可欠のものであり、ヒマワリ油はチシャ等の葉菜にかけて用いるから需要が多いためである。

第8表のように果実の種類は多く、年中豊富に出廻っていて、価格も世界一安いといわれている。特にブドーの生産は多く北中南米第1といわれ、アンデス山麓のメンドサ州はブドー栽培とブドー酒で特に有名である。南部のリオネグロ地方はリンゴ、スモモの栽培が盛んである。カンキツはオレンジが最も多いがほとんど国内消費である。バナナは不足でブラジルからも入っている。他の果物は生果のままかあるいはかん詰にされたり乾果に作られたりして英国や他の南米諸国に輸出されている。アルゼンチンの果実の消費量はブドー酒の消費と共に実に大きい。第8表には見えてないがクルミのような核果類の生産もアンデス山麓や北部の山地に多い。

同国の肉の消費量は全く驚く外はない。最近の発表によると、1年間に牛の屠殺頭数1,000万頭 (1日平均約2万7千4百頭)、牛肉にして220万トンでその内160万トンが国内消費、60万トンが輸出である。羊は15万トンの肉生産の内11万トンが国内消費、4万トンが輸出される。同国の年間1人当りの肉消費量は牛肉75kg、羊、山羊、豚を合せて15kg、その外に鶏肉2.6kg、魚肉3kgを

消費している。実に年間1人当りの合計95.6kgである。4年前までは牛肉だけで年間1人当り100kg住民全体では26億弗相当の牛肉を消費していたようで、1964年には牛の頭数が減少してウルグァイからも牛肉をいくらか輸入したようだ。それで政府は牛肉の国内消費について節約を考え、週2日は牛肉を食べない日を制定したり、他の肉類の増産を奨励したりしたためようやく牛肉の年間消費が1人当り75kgに落ち着いているらしい。

以上の外に牛乳が年間12億3,700万ℓ消費され31億ℓが加工されている。すなわち年間1人当り牛乳消費量は約55ℓになる。羊毛は年間4万トンが国内消費、14万トンが輸出である。

筆者は1日に牛6,000頭を屠殺する世界第一の屠殺場と毎日400万ℓの牛乳を集荷する同国第一の酪農組合の一工場を見学したが全く驚く外はなかった。此の組合ではバター5工場、チーズ25工場、カゼイン50工場を持っているが合計で年間バター7万5千トン、チーズ1万2千トン、カゼイン1万7千トン、粉乳5千トンを生産していた。年間の販売金額は約5億弗とのことであった。

3. 林業 同国の東北部と北部、北西部が植林地帯に選ばれている。タンニン原料及び枕木、港の施設、レンガ代用に使用されるケブラチヨは北部のチャコ地方から世界の80%が生産される。しかし良質用材が乏しいので主としてブラジルから輸入している。東北部地方では用材とパルプ用のために針葉樹のパラナ松、アメリカ松の植林が大々的に行なわれている。ミシオネス州には同国一のパルプ工場がある。同国は植林奨励に力を入れて国立銀行から長期低利融資(年間2%)を行ない資金の80%まで貸付けている。

4. 鉱業 アンデス山脈地帯と南部地方には鉱物資源が多く、石油、天然ガス、錫、鉛、銀、石炭、鉄等相当な埋蔵量があるが、遠隔不便な土地であるため石油と天然ガス以外は開発がおくれている。

5. 工業 工業生産品はアルゼンチン総生産高の約50%を占め国内需要の25%を充足している。農産物の加工、肉類の冷凍、ナメシ皮等の軽工業は盛大である。近年自動車工業も盛んになってきた。

第 10 表 アルゼンチンの貿易 (単位量1000トン 金額100万弗)

年	輸 出		輸 入		
	量	金 額	量	金 額	
1965 (11か月分)	14,151.0	1,363.0	10,112.0	1,099.8	+263.0
1964	13,194.5	1,410.5	8,539.7	1,077.3	+333.1
1963	10,461.7	1,365.1	6,099.4	980.7	+384.4
1962	11,920.0	1,209.5	7,246.0	1,350.1	-140.6
1961	7,297.0	964.1	9,784.0	1,460.4	-496.3

第 11 表 輸 出 品 の 金 額 (単位1,000弗)

項 目	1965年	1964年	1963年
畜 産 品	665,173	590,156	508,903
農 作 物	526,345	695,405	757,126
林 産 物	13,058	15,941	14,871
鉱 産 物	22,597	13,162	11,725
狩と漁業品	8,529	3,657	3,559
そ の 他 製 品	129,384	92,157	67,747
総 計	1,365,086	1,410,478	1,363,932

6. 貿易 数年前まで輸入超過の年が多かったが最近5年前から輸出超過になっている。輸出入の実績は第10表の通りであり、主要輸出品の項目と金額は第11表で分る。貿易の面で面白いことはこの国は50年以前から輸出の大部分、すなわち95%以上が農産物で占め、今日でもそれが不変ということである。農作物と畜産品とはほ

ぼ似た金額である。

輸入品は機械とモーター類、乗物類、鉄鋼と鉄製品、化学製品と薬品類、燃料と潤滑油、非鉄金属とその製品、木材とその製品、繊維と織物等が占めている。要するに重工業関係の製品と化学薬品等が主体になっている。

